

赤田東遺跡発掘調査概要

—町道二ノ井赤田線道路新設工事に先立つ埋蔵文化財調査—

2004年3月

富山県小杉町教育委員会

巻頭図版



赤田東遺跡空中写真(南から)



赤田東遺跡空中写真(北から)

赤田東遺跡発掘調査概要

—町道二ノ井赤田線道路新設工事に先立つ埋蔵文化財調査—

2004年3月

富山県小杉町教育委員会

例　　言

1. 本書は富山県射水郡小杉町下条地内に所在する赤田東遺跡の発掘調査概要である。
2. 調査は町道二ノ井赤田線道路新設工事に先立ち、小杉町都市建設課の依頼を受け、小杉町教育委員会生涯学習課が実施した。
3. 調査事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、課長補佐(文化財保護係長)高橋 登(平成13~15年度)・主幹(文化財保護係長)堀川辰幸(平成16年度)が調査事務を担当し、生涯学習課長 御後庄司(平成13年度)・石黒信明(平成15・16年度)が総括した。
4. 調査は平成14年度の試掘調査を生涯学習課主任 原田義範が担当し、平成15年度の本調査は民間調査会社から調査員1名の派遣を得て、小杉町教育委員会の原田と株式会社エイ・テックの堀井泰樹が行った。
5. 調査期間及び面積は次のとおりである。

試掘調査 平成15(2003)年2月20日・21日	(延べ2日間)	対象面積 3,712m ²	発掘面積 246m ²
本 調 査 平成15(2003)年4月23日~11月27日	(延べ43日間)		発掘面積 1,600m ²
6. 調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化財課、富山県埋蔵文化財センターから助言・指導をいただいた。また、発掘から報告書刊行に至るまで次の方々から協力を得た。記して深く謝意を表したい。(敬称略、五十音順)
安念幹倫・池野正男・栗山雅夫・田中 明・宮田進一・山内賢一
7. 本書掲載の遺物写真は、牛鶴 茂氏(奈良文化財研究所)と杉本和樹氏(西大寺フォト)の指導・協力を得て、両氏が撮影した写真を使用した。
8. 発掘調査及び資料整理の従事者は次のとおりである。(五十音順)
〔現地調査〕 酒井すず子・酒井義雄・土田ユキ子・久野静枝・三上正夫・安田久実代・山口チズ子
〔整理作業〕 金瀬ますみ・吉島正喜・岡 一美・堀井泰津子・吉沢泰子
9. 調査で得た図面・写真・遺物は小杉町教育委員会で保管し、出土遺物には遺跡名を次の略号で記入している。
赤田東遺跡(町道二ノ井赤田線): A D E
10. 遺物実測図に掲載した木製品は、株式会社吉田生物研究所に委託し、高級アルコールの含浸による保存処理を行った。

凡　　例

1. 本書に掲載の遺構図の方位は座標北、水平基準は海拔高である。
2. 調査区のグリッド杭の座標値(世界測地系)は次のとおりである。
 $X4 Y4 = X78560.194 Y -7137.587$ $X53 Y10 = X78647.685 Y -7091.832$
3. 遺構の分類記号は次の呼称を踏襲した。
S D : 溝・川跡 S K : 上坑 S P : 柱穴及び柱穴状ピット S X : 不明遺構
4. 本書掲載図版の縮尺は遺構図が1/80、出土遺物実測図が1/4を基本とし、縮尺の異なる図についてはスケールとともにその縮尺を表記した。また、遺物写真図版の縮尺は任意である。
5. 土器の断面は須恵器・森洲を黒塗りとし、他の土器は白抜きとした。また、遺物実測図中の網点等の表示は下記の表現として用いた。

	: 赤彩		: タール		: 鉄粧		: 石の断面
--	------	--	-------	--	------	--	--------
6. 土層図中の色調は、小山正忠・竹原秀雄編 1967『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社の表記を用い、土色の測定には土色計(第一合成社製 S C R - 1)を使用した。
7. 出土木製品の樹種調査は株式会社吉田生物研究所に委託し、分析結果をⅣ章に掲載した。

目 次

I 位置と周辺の遺跡	1
II 調査に至る経緯	3
III 調査の概要	4
1. 基本層序	4
2. 遺構と遺物	4
3. まとめ	19
IV 小杉町赤田東遺跡出土木製品の樹種調査結果	24

挿図目次

第1図 調査地と周辺の主な遺跡	2
第2図 試掘調査トレンチ位置	3
第3図 試掘調査の出土遺物	3
第4図 調査位置と発掘区区割り	5
第5図 遺構配置図	6
第6図 SD02・04	7
第7図 SD59・65、SK07・12・49・50・53・60・64・66・68・69・72・74	8
第8図 SK03・10・11・14・15・17	9
第9図 SD65・70、SX56・58・67・73、SP18・51	10
第10図 SP13・19・20・22～24・61～63	11
第11図 SD31・33・46	12
第12図 SK25・26・30・32、SP27～29・34～45	13
第13図 SD02・06、SK07・11・12出土遺物	14
第14図 SD04・70、SK01・03・72、SX73出土遺物	15
第15図 SD31、SK14・15・53・60、SX56・58・67、SP40出土遺物	16
第16図 包含層出土遺物	17
第17図 包含層出土遺物	18
第18図 包含層出土遺物	19

表 目 次

第1表 周辺の遺跡	1
第2表 出土遺物観察表	20

写真図版

写真図版

卷頭図版 赤田東遺跡空中写真南から（上）：北から（下）

図版1～4 発掘区

図版5～13 検出遺構

図版14～20 出土遺物

I 位置と周辺の遺跡

赤田東遺跡は富山県射水郡小杉町下条地内に位置し、遺跡の東側には太閤山が、西側には田園地帯が広がる丘陵部(射水丘陵)と平野部(射水平野)との標高約8mという境目辺りに立地する。本遺跡の所在地である小杉町は富山県のほぼ中央に位置し、北側に射水平野、南側には射水丘陵が広がり、丘陵域が全町土の約4割を占める。射水丘陵は新世紀第三紀の泥岩・砂岩層によって構成されており、和田川や下条川などの小支流が谷を削り樹枝状の地形を呈する。

この地帯は周辺の遺跡を概観すると、小杉町では遺跡の密集地帯と言える。その中でも今回は周辺遺跡として11遺跡をあげた。時代も旧石器から近世までと多岐にわたる。北側には小杉伊勢領遺跡や加茂社遺跡、用水路を挟んで東側に绳文時代前期・弥生時代後期の囲山遺跡や、旧石器が確認された中山中遺跡などの重要な遺跡群が隣接し、南側には奈良時代の製鉄跡の囲山東遺跡、近世小杉焼の箕輪窯跡などが丘陵に点在している。

今回周辺遺跡とした11遺跡の他に、绳文時代中期以降に低地の陸地化とともに形成されたと見られる集落遺跡の黒河尺目遺跡があり、弥生・古墳時代の遺跡としては、二の井遺跡・干田遺跡・小杉丸山遺跡がある。奈良・平安時代になると、小杉流通圏地帯遺跡群に代表される須恵器や鐵・炭の製造施設を備えた丘陵地の生産遺跡と、北高木遺跡や荒畠遺跡(大鳥町)などが平野部に展開する集落遺跡とに大きく分けられる。北高木遺跡からは掘立柱建物や溝などの遺構が検出され、「丈部」「鞍万磨」「介」と記した墨書き土器・出舉木簡・人形・刀子・人面墨書き土器などが出土しており、荒畠遺跡では奈良時代後半の溝から「庄」「林」と書かれた墨書き土器・硯・布目瓦などが出土している。この北高木遺跡及び荒畠遺跡の性格については、出舉木簡や国府で出土した布目瓦があること、官衙などで行われる祭祀に用いられた人形や人面墨書き土器があること、神楽川の川沿いに立地することなどから、国府や官衙に属する公的施設があったと推察される。

古代・中世において、河川は生産地と消費地を繋ぐ重要な手段であったと考えられる。北高木・荒畠遺跡と同様に下条川流域でも、墨書き土器や斎事が大量に出土した赤田I遺跡が本遺跡周辺に見られ、赤田東遺跡は赤田I遺跡を構成する遺跡群の一つと考えられる。

番号	遺跡名	所在地	種別	時代	備考
027	小杉伊勢領	三ヶ字中吉原	散布地	縄文・弥生・奈良・平安 近世	昭33年町指定史跡 平3~5年本調査
028	加茂社	戸破字加茂	散布地	古代	平5~14年試掘調査 平6年本調査
031	太閤山温泉	黒河	散布地	古墳(初期)	
032	小杉燒箕輪窯跡	黒河	窯	近世	昭41・53年本調査
033	中山北A	黒河	散布地	古墳(初期)	平13年試掘調査
035	中山中	黒河	散布地	旧石器・縄文・弥生・古墳 奈良	昭33年町指定史跡 昭56・平4・7年試掘調査 平2・13年本調査
036	中山南	黒河	集落	弥生	昭38・43年本調査 昭50年県指定史跡
055	岡山	太閤山八丁目	散布地・墓	縄文(前期)・弥生(後期)	昭44年本調査 平5年県指定史跡
056	岡山南	太閱山七丁目	散布地	不明	
057	岡山東	太閱山八丁目	製鉄	奈良	昭44年本調査
301	赤田I	下条字二の井・赤田	集落・祭祀	古墳(初期)・平安	平14年本調査

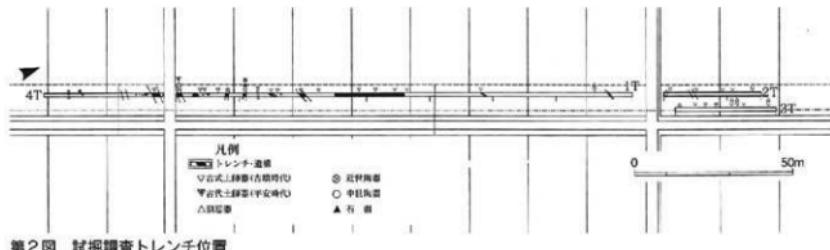
第1表 周辺の遺跡



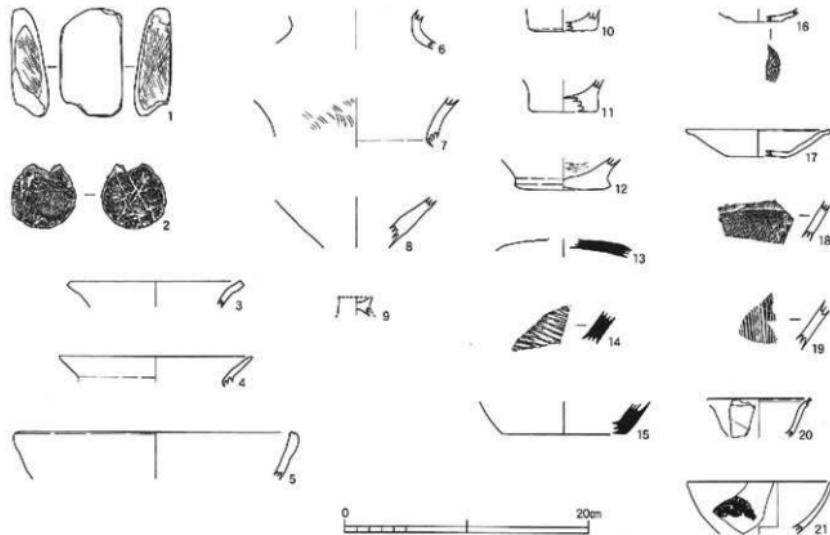
第1図 調査地と周辺の主な道路(1:6,000)

II 調査に至る経緯

町道二ノ井赤田線道路整備事業は、平成12年11月に府内に設けられた「小学校統合に関する各課連絡調整会議」の第3回会議（平成13年2月5日開催）で具体的な計画が明らかになっている。道路整備は全体延長960m、幅員16mで北端からの350m区間は区画整理事業区域に含まれ、残り610mを既存農道拡幅での施工計画としていた。工期は平成15～17年度の3カ年、事業費8億円が予定されていた。計画路線は、周知の埋蔵文化財包蔵地の赤田東遺跡内を通ることから、開発に当たっては文化財保護法に基づく、埋蔵文化財の取り扱い等の保護措置が必要な旨を協議の場で伝えている。赤田東遺跡は、既に周知の埋蔵文化財包蔵地として包蔵地地図に掲載されていたが、その実態については不詳であった。調査は平成13年3月22日の統合小学校建設に先立ち実施した学校予定地及び周辺の踏査で弥生時代後期の土器や奈良時代から平安時代の須恵器がまとめて採集されることにより、二期の遺跡の存在が想定された。試掘調査は既存農道の拡幅予定の西側水田にバックホーで幅約1.0mのトレーナー（試掘溝）を設け、遺構・遺物の有無の確認を行い、幅0.5～2.5mの溝5条と直径0.3～1.5mの土坑8基を検出した。遺構・遺物がまとめて見つかった約1,600m²を本発掘調査の対象地とした。



第2図 試掘調査トレーナー位置



第3図 試掘調査の出土遺物

III 調査の概要

1. 基本層序

調査区の基本層序は1～4層に分層される。上から1層は水田耕作土、2層は黒褐色(10YR3/1)、3層は黒色(10YR1.7/1)で共に強粘性の自然堆積土、4層は灰黄褐色(10YR6/2)強粘性の地山である。

2. 遺構と遺物

2号溝(S D02、第5・6・13図、図版4・5・16～19)

調査区南側に位置する全長約6.5m・幅40cm～79cmを測る溝である。北側から円弧のように南西側へ蛇行し、調査区外へのびる。覆土は炭化物を含む黒褐色粘土層が主に堆積する。平地式建物の周溝と考えられる。遺物は弥生土器が出土。第13図26～28は口縁端部に櫛状具で刻みを入れる弥生土器で、時期は弥生時代中期後半のものである。

4号溝(S D04、第5・6・14図、図版5・18)

2号溝の北端部を交差する北東～南西方向の直線溝である。全長約2.6mを検出し、東端は調査区外へのびる。覆土は炭化物を含む黒褐色粘土層が堆積する。遺物は古墳時代の土師器・石製品が出土している。

31号溝(S D31、第5・11・15図、図版11・15・19)

調査区中央部に位置する北東～南西方向の直線溝。一部用水によって斬ち切られているが全長約19mを検出し、幅56cm～88cm、深さ17cm～32cmを測る。断面は概ね逆台形状を呈し、覆土は暗灰色粘土層が堆積している。この溝より北側には殆ど遺構が検出されないことから、集落の境界域を示すものと考えられる。遺物は弥生土器・土師器が出土している。第15図115は底部の回転糸切りが未調整な土師器焼で、時期は平安時代である。

3号土坑(S K03、第5・8・14図、図版6・14)

建物に伴う周溝と考えられる2号溝の内側に位置する不整形な土坑である。覆土は炭化物が多く含まれる黒褐色粘土層が堆積し、最深で38cmを測る。遺物は弥生土器・石製品が出土。第14図80は有茎式石錐である。

11号土坑(S K11、第5・8・13図、図版6)

2号溝の内側、3号土坑の東側に位置する不整形土坑で、深さは最深40cmを測る。覆土は炭化物・土師器細片を含む黒褐色粘土層が堆積する。2号溝を周溝とする平地式建物の柱穴と考えられる。遺物は土師器・須恵器が出土。

12号土坑(S K12、第5・7・13図、図版6・14・17)

2号溝の内側、11号土坑の北側に位置する楕円形土坑で、深さは最深39cmを測る。覆土は炭化物・土器片を含む黒褐色粘土層が堆積する。中心部から第13図45の敲石、46・47の門石がかたまって出土している。

53号土坑(S K53、第5・7・15図、図版8・15)

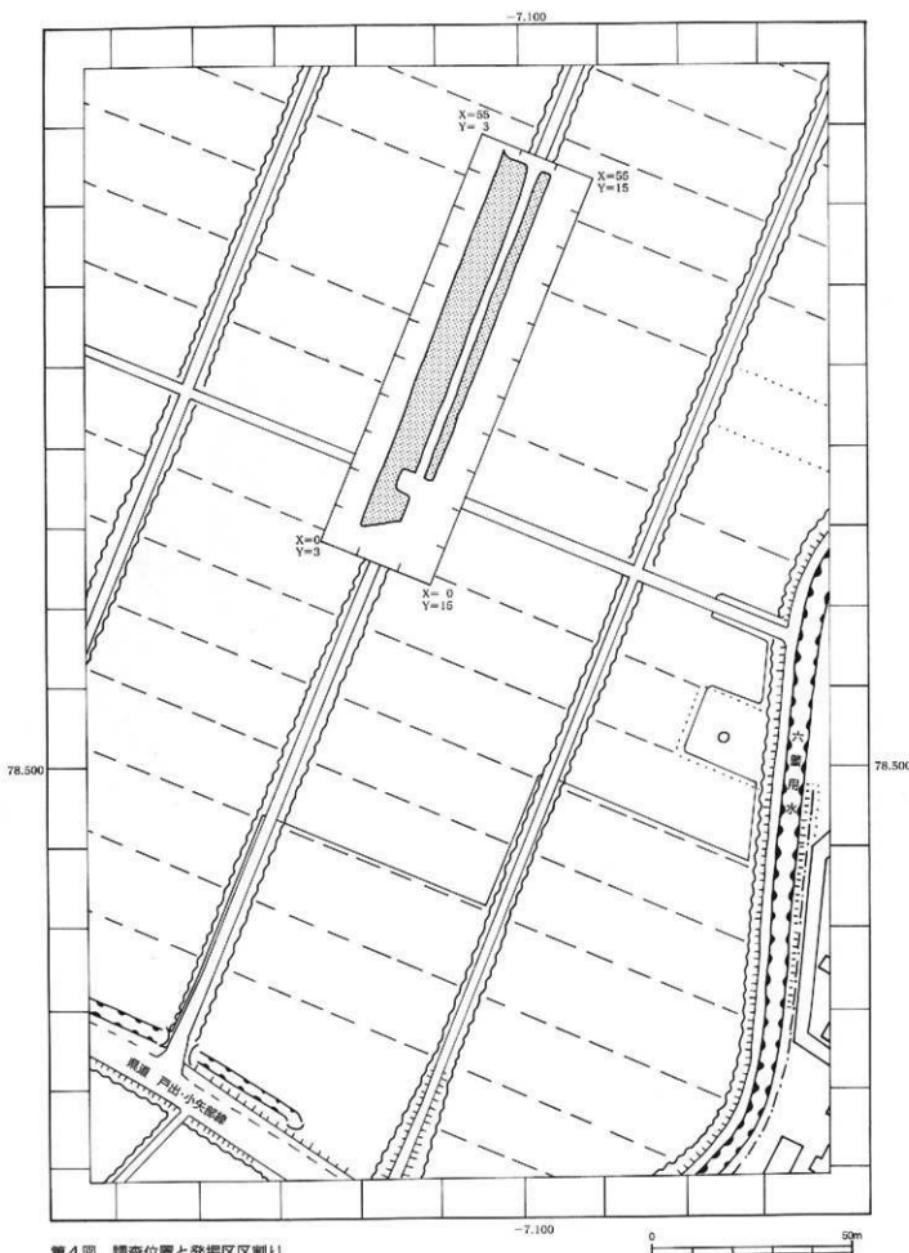
調査区南東端に位置する土坑、深さは最深で24cmを測る。調査区外へのびるため正確な外形は不明である。覆土は炭化物・土器片を含む黒褐色粘土層が堆積する。遺物は弥生土器が出土している。第15図96～101は有段口縁の弥生土器甕で、時期は弥生時代後期のものである。

72号土坑(S K72、第5・7・14図、図版10・14・15)

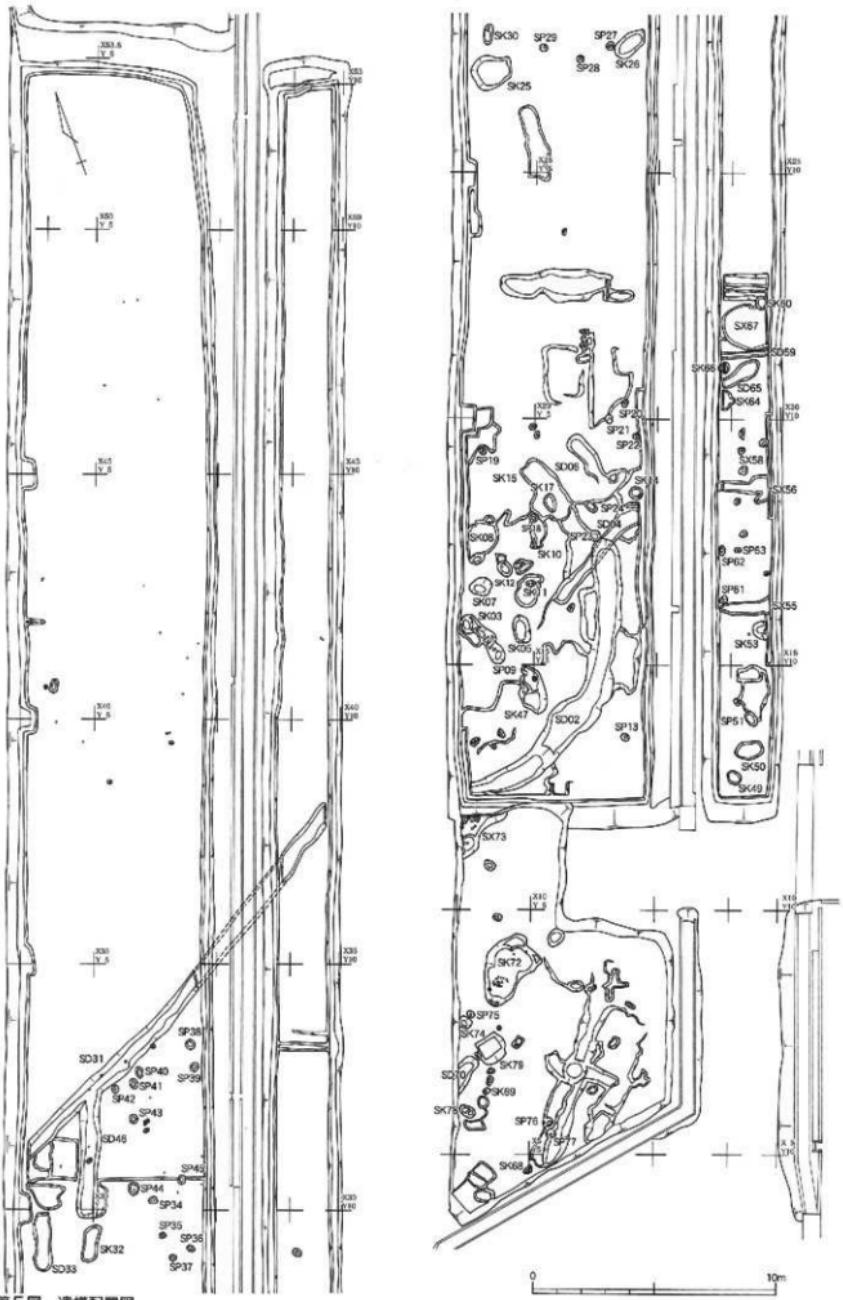
調査区南端部に位置する不整形土坑で、深さは最深で36cmを測る。覆土は上層に暗灰色又は褐灰色粘土層、下層に黒褐色粘土層が堆積する。遺物は弥生土器・石製品が出土。第14図52は羽状文を施す弥生時代中期後半の甕か。

40号柱穴土坑(S P40、第5・12・15図、図版12・15)

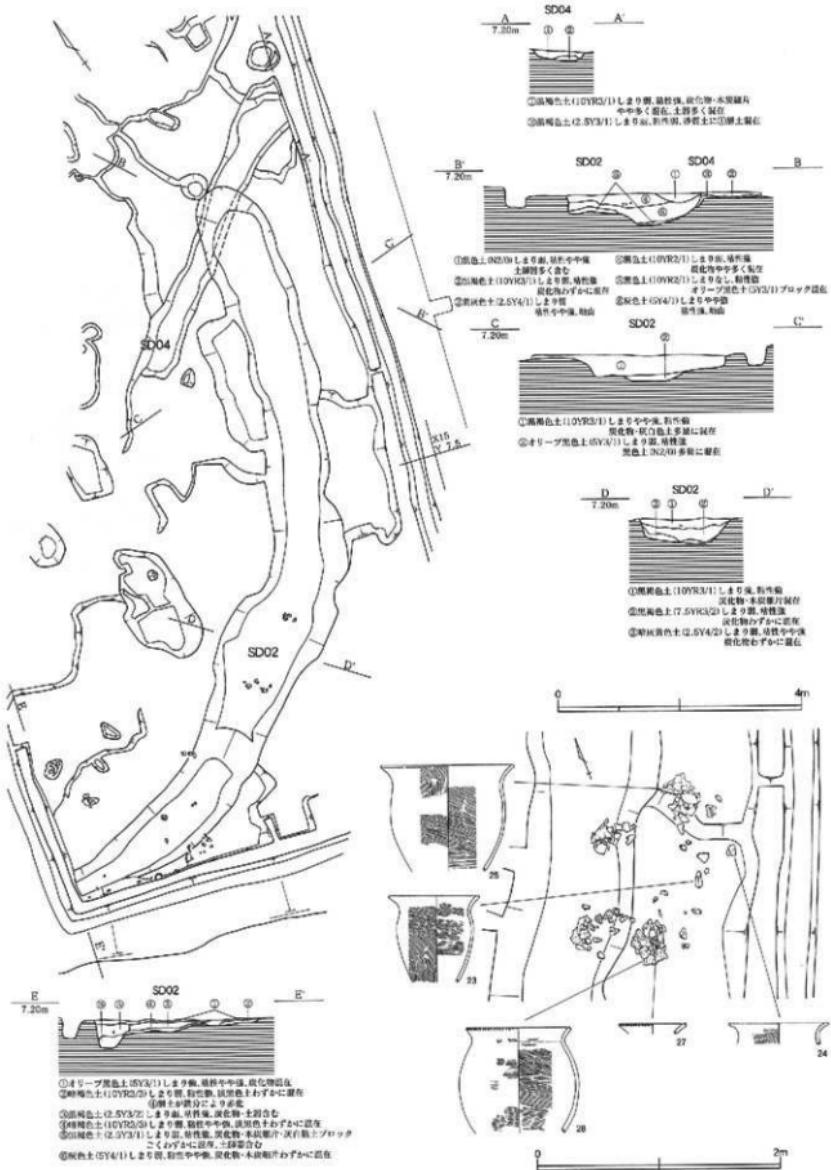
調査区中央部の31号溝に隣接する楕円形土坑である。規模は長軸44cm、短軸22cm、深さは最深で15cmを測る。断面は逆台形状を呈し、覆土は炭化物を含む暗灰色粘土層が堆積する。遺物は第15図116の弥生土器甕が出土している。



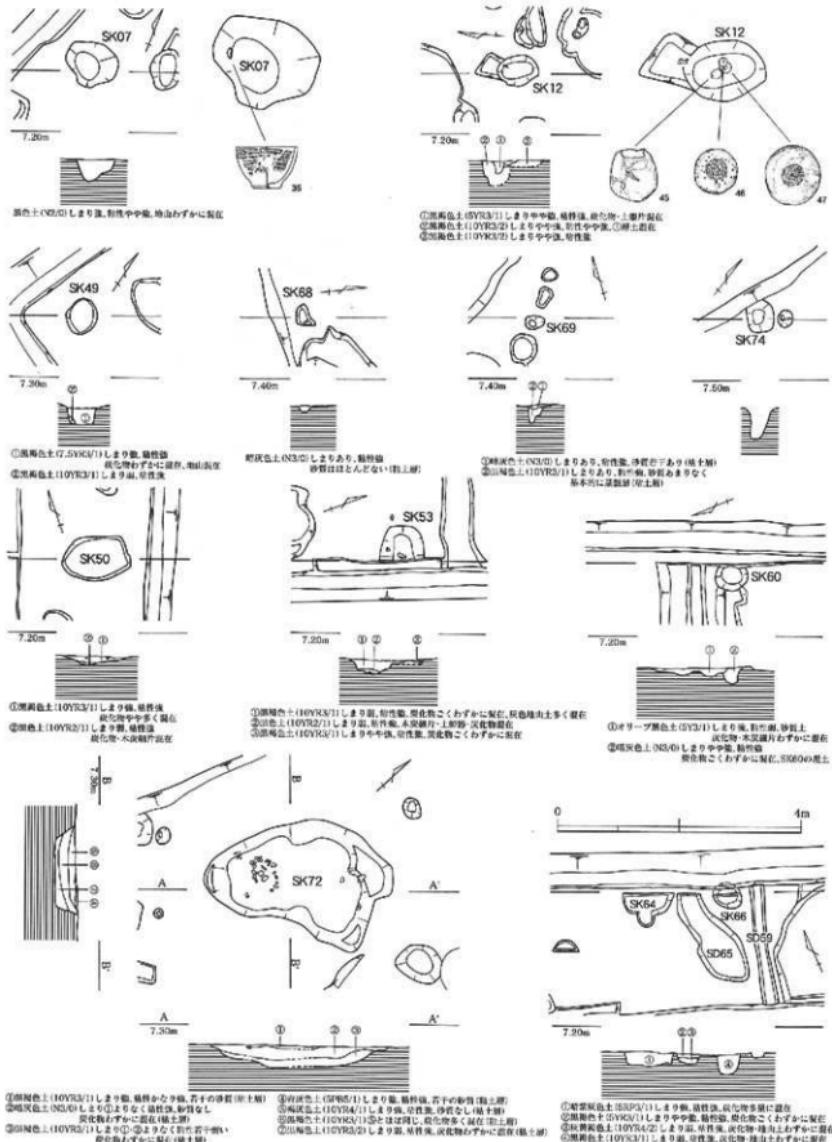
第4図 調査位置と発掘区区割り



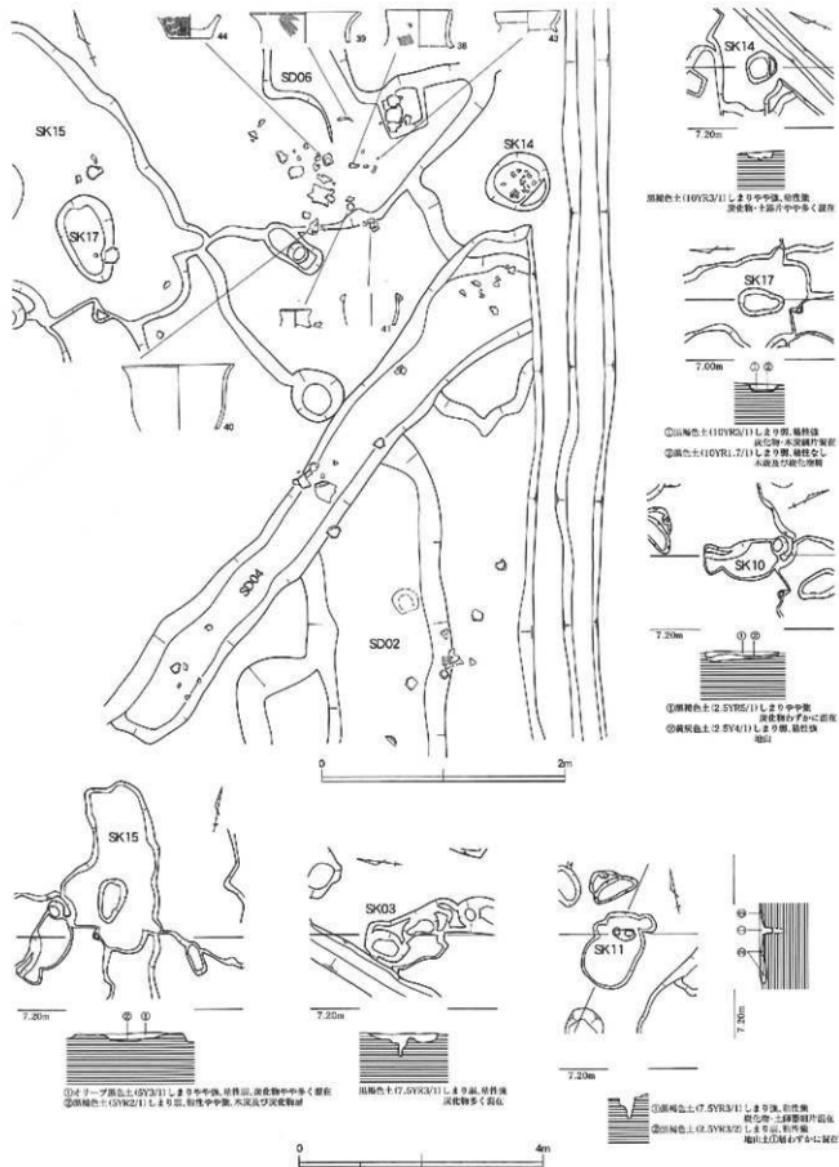
第5図 遺構配置図



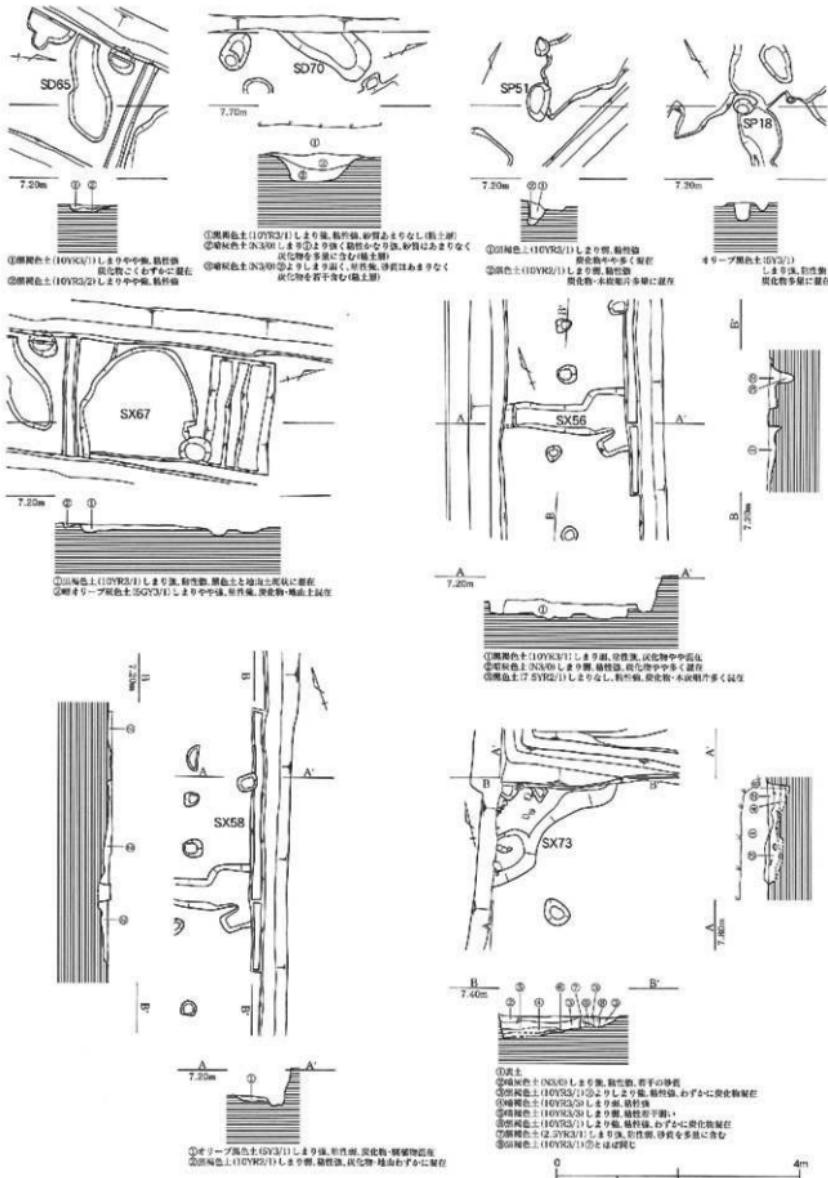
第6図 SD02-04



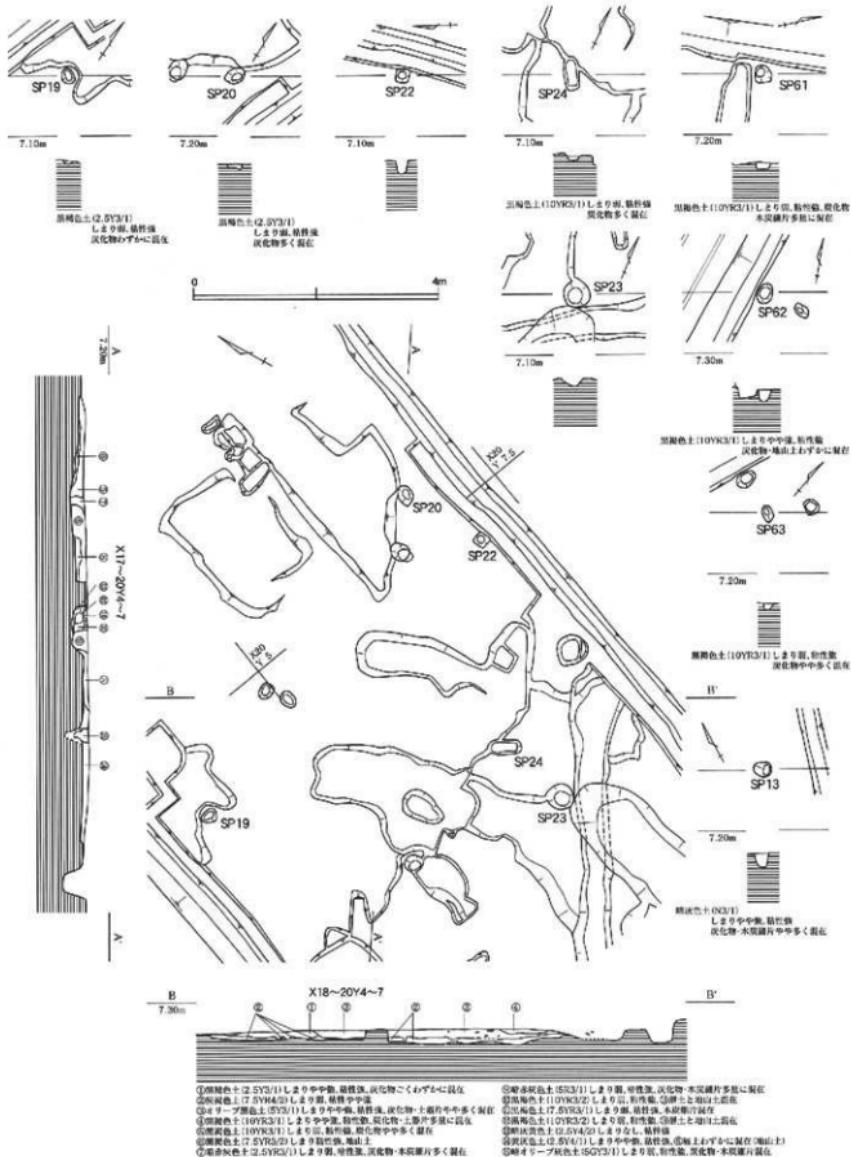
第7図 SD59-65, SK07-12-49-50-53-60-64-66-68-69-72-74



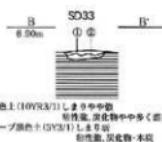
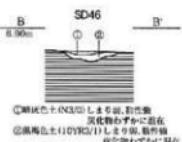
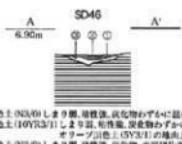
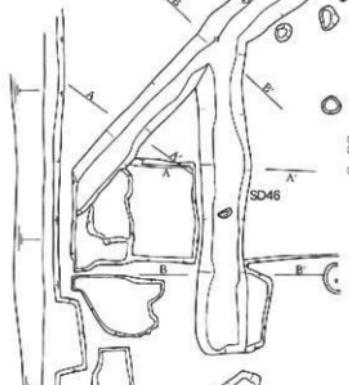
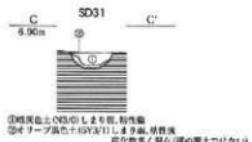
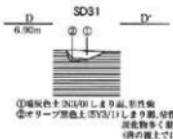
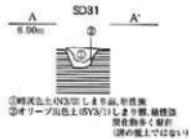
第8図 SK03-10-11-14-15-17



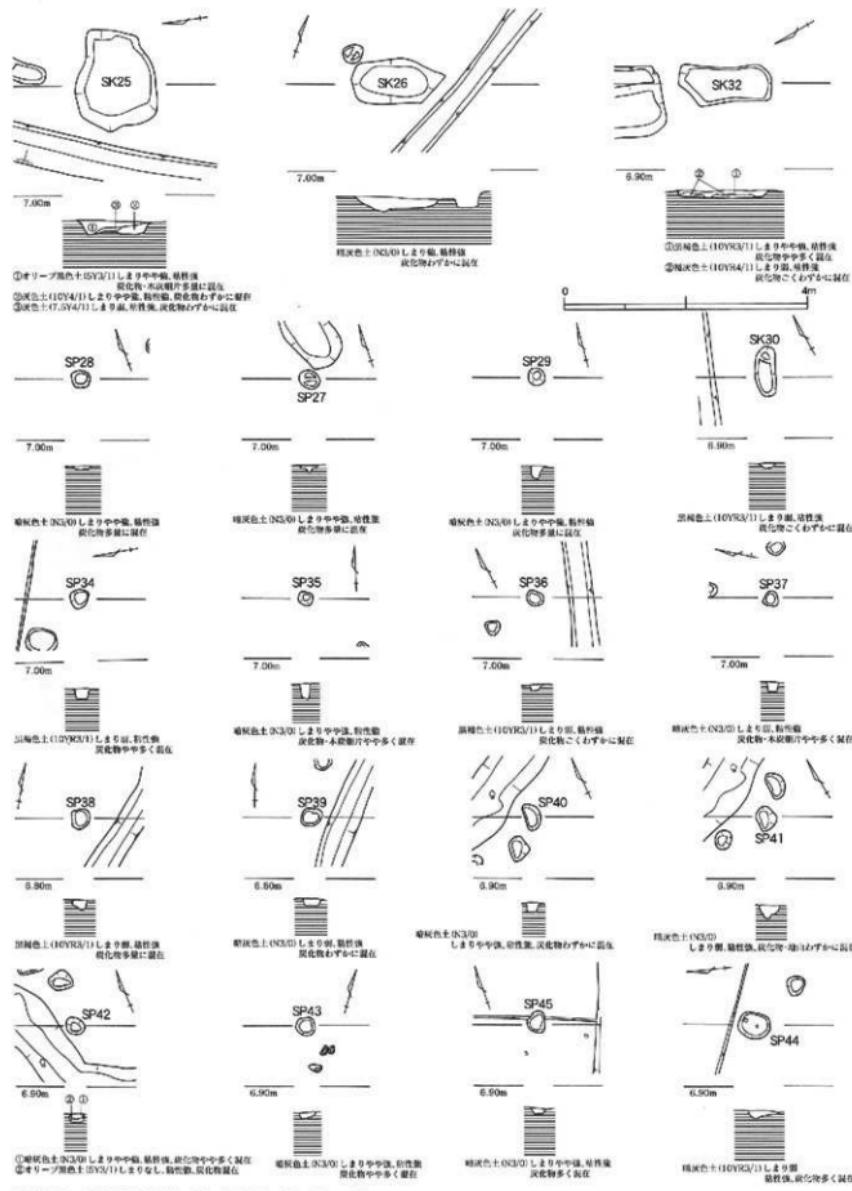
第9図 SD65・70,SX56・58・67・73,SP18,51



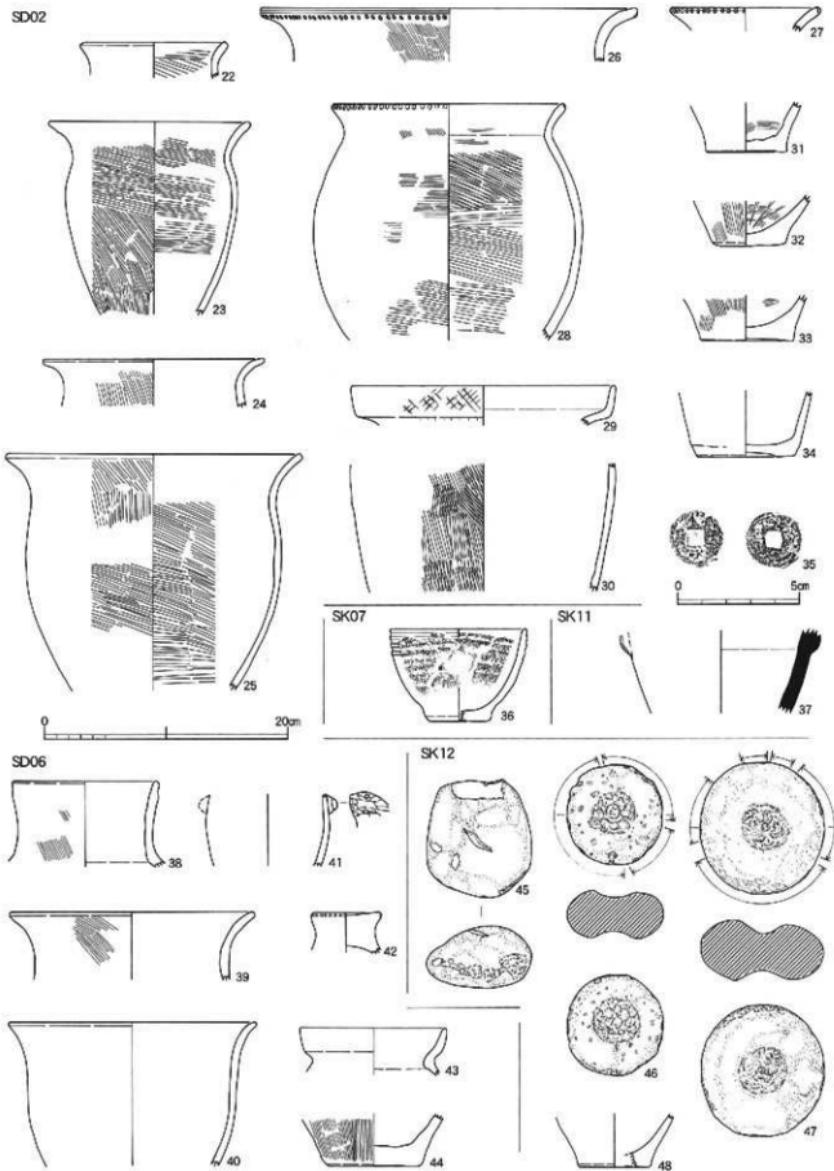
第10図 SP13-19-20-22-24-61~63



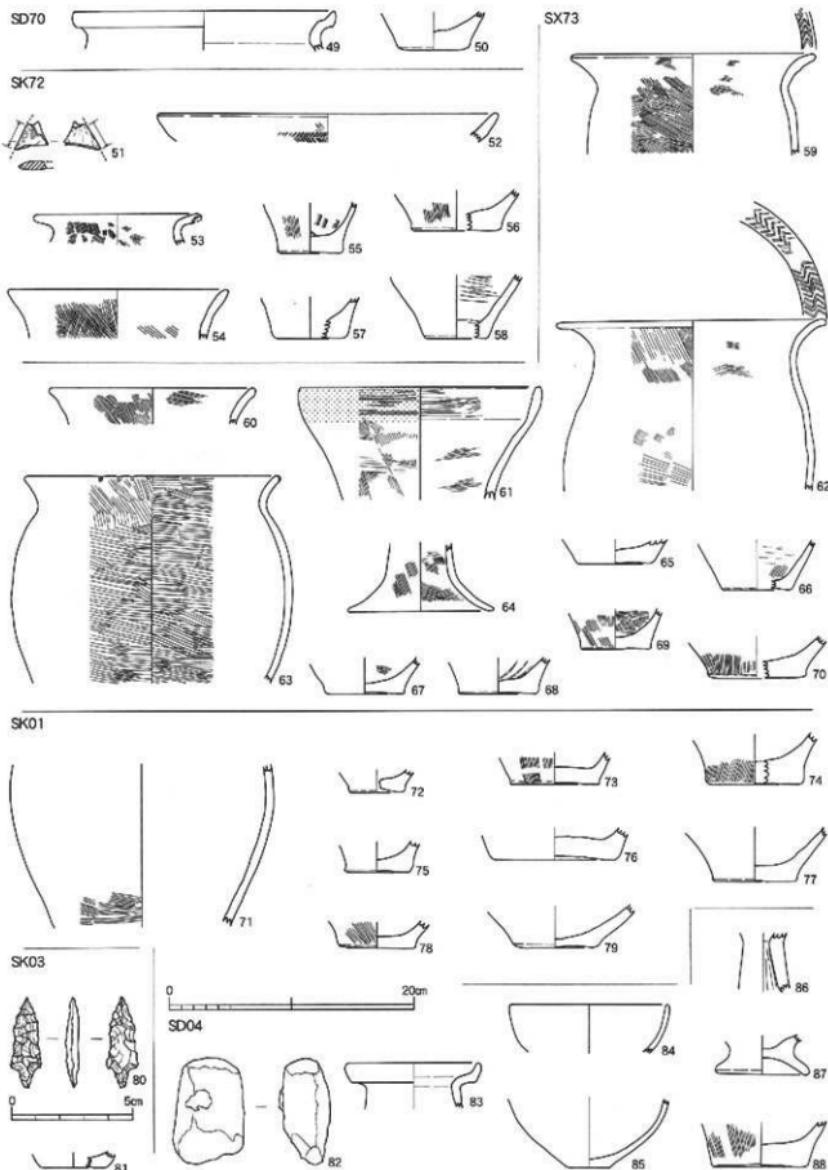
第11図 SD31・33・46



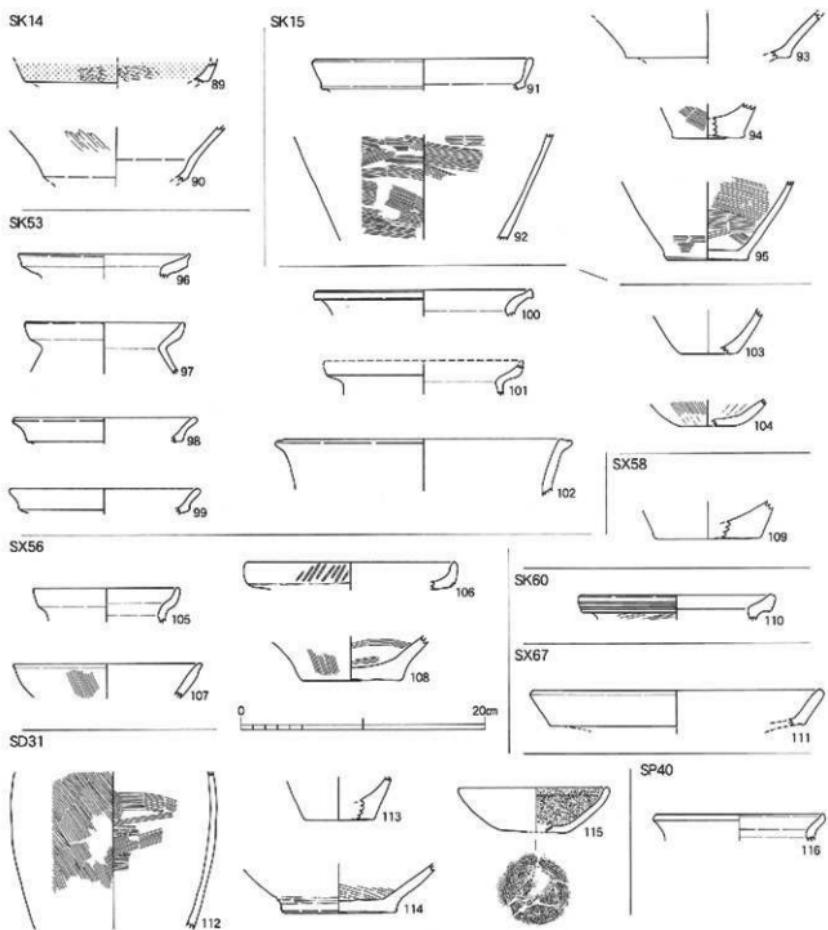
第12図 SK25・26・30・32、SP27~29・34~45



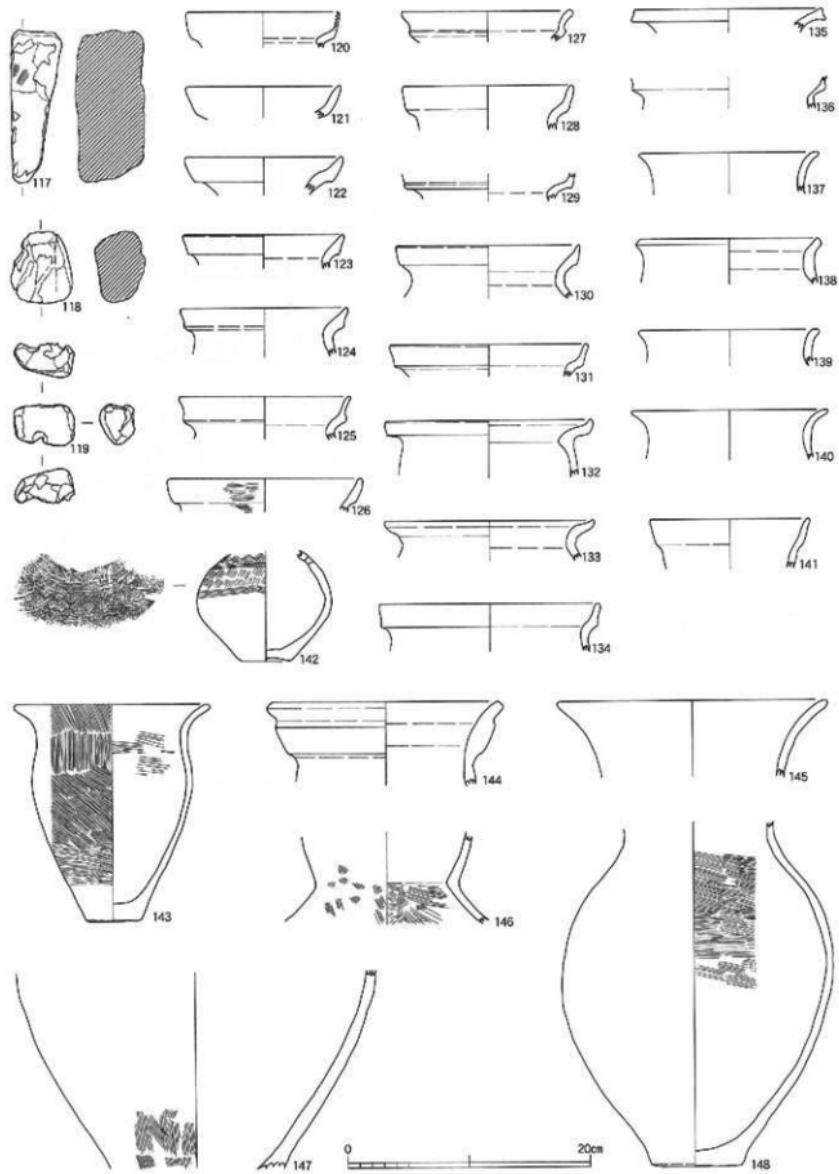
第13図 SD02-06, SK07-11-12出土遺物



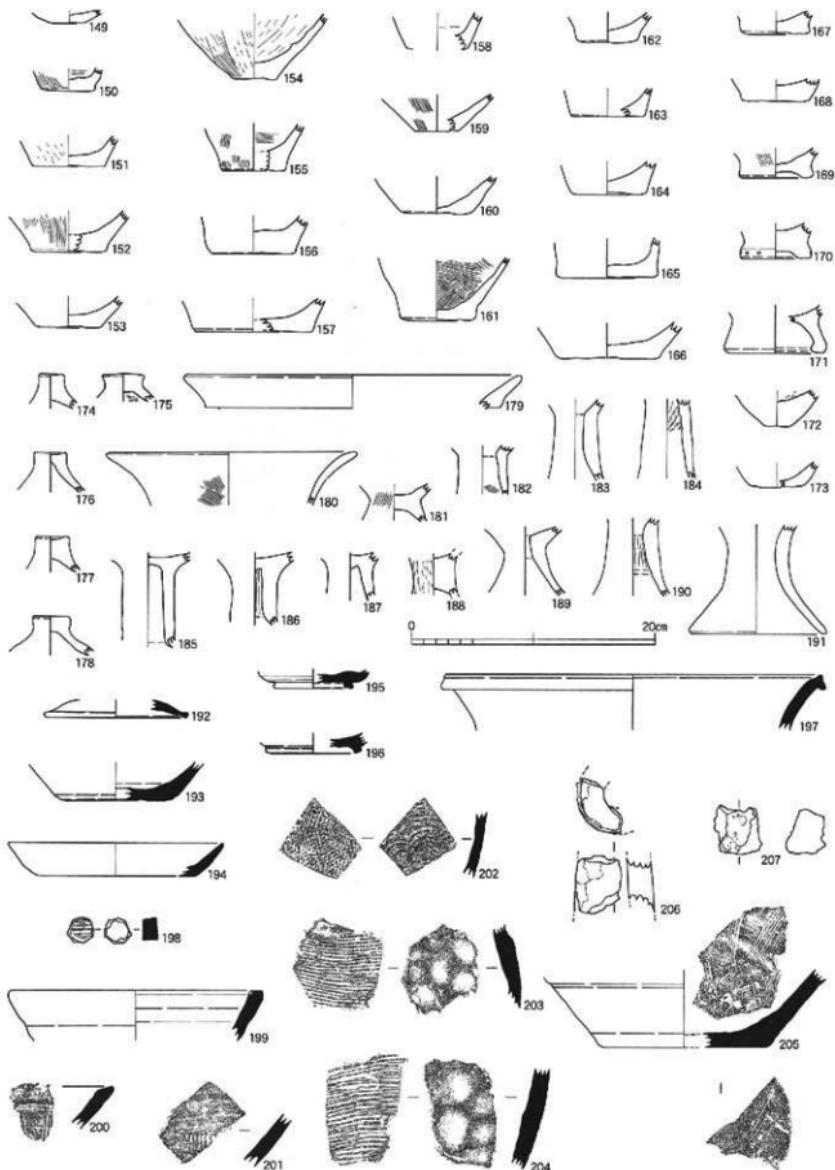
第14図 SD04・70, SK01・03・72, SX73出土遺物



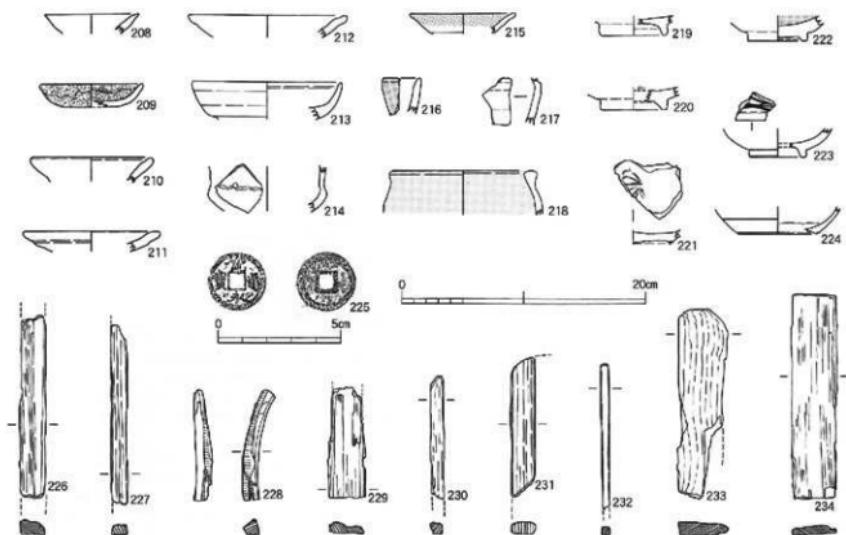
第15図 SD31、SK14・15・53・60、SX56・58・67、SP40出土遺物



第16図 包含層出土遺物



第17回 包含層出土遺物



第18図 含層出土遺物

73号不明遺構 (S X73、第5・9・14図、図版10・15・18・19)

調査区南西端部に位置する不明遺構。西端は調査区外へのびるが、東端は2号溝へと繋がる周溝の続きと考える。覆土は炭化物を含む黒褐色粘土層が主に堆積する。遺物は弥生土器が出土している。第14図59・62は口縁部内面に羽状文を施す、弥生時代中期後半の甕である。61は口径19.6cmを測り、外面に赤彩を施す弥生土器甕。

包含層出土遺物 (第16~18図、図版14・16・17・20)

包含層からは弥生土器・須恵器・珠洲・中世土器・古瀬戸・越中瀬戸・伊万里・木製品・石製品・銅鏡・羽口・鉄滓と、弥生時代から江戸時代に至る遺物が出土している。第16図142は波紋文・直線文・斜行単線文を施す弥生土器の小型壺。第17図205は鉗目8条の珠洲片口鉢。第18図209は内外面にタールが付着している中世土器皿。

3.まとめ

弥生時代中期 SD02は周溝をもつ平地式建物の様相を呈しており、この検出により弥生時代中期の低湿地の住居域を捉えることになった。

弥生時代後期から古墳時代初期 発掘区東側200mに位置する丘陵上の圓山遺跡では弥生時代終末期の方形周溝墓が確認され、これまでにもこの丘陵端部に隣接する広範囲の平地から同時期の遺物が採集されている。今回の発掘区からは同時期の遺物や土坑や溝も散見したが、集落跡や住居跡は確認できなかった。

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第3図	1	4トレンチ	石器	砥石					
	2	1トレンチ	石器	おもり?					
	3	1トレンチ			13.9			口縁1/14	
	4	1トレンチ			15.8			口縁1/14	
	5	1トレンチ			(22.0)			口縁1/16	
	6	1トレンチ						1/8	
	7	2トレンチ						1/8	
	8	3トレンチ						体部1/6	
	9	1トレンチ							
	10	1トレンチ				5.5		底部1/3弱	
	11	2トレンチ				5.6		底部1/4	
	12	1トレンチ				7.9		底部充存	
	13	3トレンチ	須恵器	壺蓋				1/6	
	14	1トレンチ	須恵器						
	15	3トレンチ	須恵器			9.8		1/8	
	16	1トレンチ				3.6		底部1/6	
第13図	17	1トレンチ	中世土師器	皿	11.5	2.2	4.8		口縁わざか 底部1/4弱
	18	11トレンチ		すり鉢					
	19	2トレンチ							
	20	1トレンチ	近世陶器・磁器		(8.2)				
	21	2トレンチ	近世陶器・磁器	瓶	11.7				1/19
	22	SD02 B区	弥生土器	甕	11.4			口縁1/5	
	23	SD02 B区	弥生土器	甕	16.0			口縁7/8	
	24	SD02 B区	弥生土器	甕	17.6			口縁7/8	
	25	SD02 B区 X15Y16	弥生土器	甕	23.8			口縁1/2	
	26	SD02 A区	弥生土器	甕	30.4			口縁1/8	
	27	SD02 B区	弥生土器	甕	12.0			口縁1/5	
	28	SD02 B区	弥生土器	甕	18.8			口縁1/3	
	29	SD02 D区	弥生土器	甕	21.4			口縁1/8	
	30	SD02 B区	古式土師器					体部下1/8	
	31	SD02 B区				6.6		底部1/4	
	32	SD02				5.8		底部充存	
	33	SD02				7.7		底部充存	
	34	SD02 A区				8.1		底部1/4	
第14図	35	SD02 C区	古鉢						
	36	SK07	縹文土器	下野式	11.0	7.5	4.8		1/2弱
	37	SK11	須恵器				自然釉		1/9
	38	SD06	弥生土器	長頸甕	11.6			口縁1/8	
	39	SD06			19.8			口縁1/8	
	40	SD06	古式土師器	甕	20.0			口縁1/16	
	41	SD06		甕				体部1/3	
	42	SD06			5.7			上部充存	
	43	SD06	弥生土器	甕	11.6			口縁1/12	
	44	SD06				7.7		底部充存	
	45	SK12	石器	磨石					
	46	SK12	石器	臼石					
	47	SK12	石器	臼石					
	48	SK12				6.0		底部1/4	
	49	SD70 X3Y6	古式土師器	甕	21.3			口縁先端1/8	
	50	SD70 X3Y6				5.9		底部1/3	
	51	SK72 X8-9Y4	石器	磨製石斧?					
	52	SK72 X8-9Y4	弥生土器		27.4			口縁1/16	
	53	SK72 SP4	弥生土器	甕	13.2			口縁1/4	
	54	SK72 SP15 SK72 X8-9Y4	弥生土器	甕	17.9			口縁1/8	
	55	SK72 SP2				5.3		底部1/2	
	56	SK72 X8-9Y4				6.3		底部1/4	
	57	SK72 X8-9Y4				7.4		底部1/3	
	58	SK72 X8-9Y4				5.4		底部1/4	

第2表 出土遺物観察表

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径(cm)	唇高(cm)	底径(cm)	備考	残存率
	59	SX73	弥生土器	釜	19.4			口縁焼付箇	口縁1部、体部1/6
	60	SX73			16.6				口縁1/12
	61	SX73	弥生土器	壺	19.6			外面赤彩	口縁はば完存
第14回	62	SK72 XB-9V4 SK72 SP2 SX73 SX73	弥生土器	壺	21.5				口縁3/4 体部上半3/4
	63	SX73	弥生土器	壺	20.5			垂み	口縁1/6強 体部1/4弱
	64	SX73		高杯			脚径12.0		脚先2/3
	65	SX73					6.3		底部完存
	66	SX73					5.8		底部1/8
	67	SX73					6.5		底部完存
	68	SX73					6.6		底部1/2
	69	SX73					5.8		底部1/3
	70	SX73					8.1		底部1/2
	71	SK01	古式土師器	壺					体筋下1/4
	72	SK01					4.3	穿孔あり	底部1/4
	73	SK01					7.2		底部1/3
	74	SK01					7.9		底部1/3
	75	SK01					5.4		底部完存
第15回	76	SK01					9.6		底部焼付箇完存
	77	SK01					6.8		底部完存
	78	SK01					6.1		底部完存
	79	SK01					6.5		底部完存
	80	SK03	石器	石錐				有蓋式	
	81	SK03					5.2		底部1/8
	82	SD04 B区	石器	石斧					
	83	SK04	古式土師器	壺	10.7				口縁1/5
	84	SD04 Bセク	古式土師器		12.8			100と同一箇体、赤彩	口縁1/24
	85	SD04 Bセク	古式土師器				3.3	101と同一箇体	底部完存
	86	SD04 B区		高杯					脚上部完存
	87	SD04 Bセク			7.0				3/4
	88	SD04 B区			7.7				底部焼存
	89	SK14	古式土師器					内外面赤彩	
	90	SK14		高杯					環部1/8
	91	SK15				17.5			口縁1/16
	92	SK15	古式土師器						体筋下1/4
	93	SK15	弥生土器	高杯					環部1/12
	94	SK15					5.8		底部1/3
	95	SK15					6.7		底部完存
	96	SK53	弥生土器	釜	13.9				口縁1/12
	97	SK53	弥生土器	釜	13.9				口縁1/8
	98	SK53	弥生土器	釜	14.7				口縁1/8
	99	SK53	弥生土器	釜	15.4				口縁1/12
	100	SK53	弥生土器	釜	17.4				口縁1/8
	101	SK53	弥生土器	釜	(16.0)				1/8
	102	SK53		壺	22.4				口縁1/5
	103	SK53					4.7		底部1/4
	104	SK53		甌			4.4		底部1/2
	105	SX56 Aセク			11.8				口縁1/12
	106	SX56 Aセク	弥生土器	高杯	16.8				口縁1/8
	107	SX56 Aセク	古式土師器		15.4				口縁1/16
	108	SK56					7.8		底部1/5
	109	SK58					8.4		底部1/8
	110	SK60	弥生土器		15.2				口縁1/16
	111	SX67	弥生土器	高杯	23.2				口縁1/8
	112	SD31 売面	古式土師器					一部赤彩あり	体筋下1/4
	113	SD31 E区					5.6		底部1/4
	114	SD31 底面					9.0		底部1/2
	115	SD31 G区	古式土師器	甌	12.0	(3.7)			口縁1/2強 底部はば完存

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第15回	116	SP40	弥生土器	甕	13.6				口縁1/16
	117	X18Y9	石籠	礫石					
	118	X18Y5	石籠	軽石					
	119	X40Y4	石籠						
	120	X6Y8	弥生土器	甕	12.2			口縁1/8	
	121	X30Y6			12.3			口縁1/12	
	122	X38Y5	弥生土器	甕	12.6			口縁1/6	
	123	X33Y8	弥生土器	甕	12.8			口縁1/12	
	124	X19-20Y3-4	弥生土器	甕	13.4			口縁1/11	
	125	X38Y5	弥生土器	甕	13.7			口縁1/8	
	126	X3Y7	弥生土器		15.5			口縁1/14	
	127	X38Y5	弥生土器	甕	13.8			外腹付帯	口縁1/10
	128	X37Y4	弥生土器	甕	13.8				口縁1/12
	129	X38Y5	弥生土器	甕					1/12弱
	130	X40Y4	弥生土器	甕	14.8				口縁1/8
	131	X18Y9	弥生土器	甕	16.0				口縁1/12
	132	X20Y9	弥生土器	甕	16.7				口縁1/4
第16回	133	X43Y6	弥生土器	甕	17.0				口縁1/8
	134	X18Y6	弥生土器	甕	17.8				口縁1/12
	135	X40Y4	弥生土器		15.1				口縁1/12
	136	X33Y4							1/10
	137	X18Y5			14.2				口縁1/8
	138	X20Y9	弥生土器	甕	14.3				口縁1/5
	139	X38Y5			14.3				口縁1/8
	140	X15Y6			15.5				口縁1/8
	141	X38Y5	弥生土器	甕	13.0				口縁1/8
	142	X16Y7	弥生土器	小型甕			4.1	穴2ヶ所	体部完存
	143	X7Y4	弥生土器	小型甕	15.5	17.6	4.5		上半部1/2 底部完存
	144	X38Y9	弥生土器	甕	18.2				口縁1/8
	145	X33Y6			21.6				口縁1/8
	146	X38Y5							1/5
	147	X17Y7	古式土師器						体部下1/4
	148	X17Y14	弥生土器	甕			7.5		体部ほぼ完存
第17回	149	X16Y8	古式土師器	甕			2.3		底部完存
	150	X15Y4					4.5		底部完存
	151	X37Y9					5.8		底部1/4
	152	X16Y7					6.3		底部1/2弱
	153	X17Y6					5.3		底部完存
	154	X13Y9					3.7		底部完存
	155	X18Y6					5.2		底部1/3
	156	X39Y4					6.9		底部完存
	157	X38Y5					9.4		底部1/2
	158	X19Y6							1/4弱
	159	X38Y5					3.5		1/2
	160	X13Y5					5.7		底部完存
	161	X17Y4					6.2		底部完存
	162	X43Y6					4.9		底部完存
	163	X24Y4					5.6		底部1/4
	164	X32Y4					6.0		底部完存
	165	X30Y5					8.3		底部1/4
	166	X36Y5					8.5		底部完存
	167	X20Y6					5.6		底部完存
	168	X18Y4					5.4		底部完存
	169	X19-20Y3-4					5.6		1/2弱
	170	X38Y5					5.5		底部2/3
	171	拂土						脚径8.2 円形削突文をめぐらす	底部1/4
	172	X6Y8					2.0		底部完存
	173	X7Y6					4.4		底部1/2
	174	X39Y4			つまみ径2.1				つまみ部完存
	175	X7Y6			※3.4				※つまみ徑 つまみ完存

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	備考	残存率
	176	X39Y5			つまみ径2.7				つまみ部充存
	177	X49Y6			つまみ径2.8				つまみ部充存
	178	X17Y6			つまみ径3.1				つまみ部充存
	179	X45Y6	弥生土器	高环	27.2				口縁1/12
	180	X19Y4			19.8				口縁わずか
	181	X39Y5							
	182	X6Y7		高环					
	183	X47Y9		高环					脚上部充存
	184	X36Y8		高环					脚上部充存
	185	X40Y5		高环					脚上部充存
	186	耕土		高环					脚上部充存
	187	X15Y5		高环					脚上半部充存
	188	X32Y9		高环					
	189	X50Y4		高环					体部中充存
	190	X38Y5		高环					脚上部充存
	191	X47Y9		高环			脚径10.7		脚先1/4
第17回	192	X43Y6	須恵器	环蓋	11.5				1/9強
	193	X22Y4	須恵器						底部1/4
	194	X18Y4	須恵器	环	17.4	2.7			1/15
	195	X33Y6	須恵器	环			6.2		底部1/2弱
	196	X18Y9	須恵器	环			6.8		1/4弱
	197	X32Y9	須恵器		36.0				1/10強
	198	X26Y5	珠洲						
	199	X42Y4	須恵器		20.4				1/12
	200	X18Y5	珠洲	片口鉢					
	201	X46Y6	珠洲	片口鉢					
	202	X13Y4	須恵器	盤					
	203	X46Y6	珠洲	盤					
	204	X19-20Y3-4	珠洲	鏡					
	205	X45Y4	珠洲	片口鉢					1/8
	206	X31Y8		羽口					
	207	X17Y6		鉄滓					
第18回	208	X40Y4	土師器		7.7				口縁1/9
	209	X38Y6		埴明皿	8.2	1.9		内外面タール付箋 (内面厚く付箋)	1/3
	210	排水溝			9.5			内面一部タール付箋	口縁1/20
	211	X46Y6			11.4				1/7
	212	X48Y6			12.4				口縁1/14
	213	X19-20Y3-4		环	12.0				口縁わずか 1/6強
	214	X21Y3						内外面輪	
	215	X22Y4			(6.4)			内外面鉄輪	
	216	X39Y5						内外面鐵輪	
	217	耕土						内外面輪	
	218	X40Y5			11.3			内外面鉄輪	1/10
	219	X37Y9				5.1			1/2
	220	X22Y4				5.3		内外面輪	
	221	X46Y6	吉瀬戸?					全面釉	1/4強
	222	X20Y3				4.9		全面鉄輪	1/4
	223	X47Y4				4.6		全面釉	1/5
	224	X40Y5				6.4		全面面釉	1/8
	225	X44Y5	古銭					質水透宝	
	226	X46Y6	木製品					アスナロ材	
	227	X36Y5	木製品					スギ材	
	228	X47Y4	木製品					イヌマキ材	
	229	X48Y6	木製品					スギ材	
	230	X46Y6	木製品					アスナロ材	
	231	X43Y6	木製品					スギ材	
	232	X18Y5	木製品					クワ材	
	233	X45Y6	木製品					スギ材	
	234	X48Y6	木製品					スギ材	

IV 小杉町赤田東遺跡出土木製品の樹種調査結果

(株) 吉田生物研究所

1. 試料

試料は小杉町赤田東遺跡から出土した用途不明品 9 点である。

2. 観察方法

剃刀で木口(横断面)、柾目(放射断面)、板目(接線断面)の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果(針葉樹 3 種、広葉樹 1 種)の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1) マキ科マキ属イスマキ (*Podocarpus macrophyllus* D. Don)

(遺物 No.228 大)

(写真 No.47 大)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであり、年輪界がやや不明瞭で均質な材である。樹脂細胞はほぼ平等に散在し数も多い。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で 1 分野に 1 ~ 2 個ある。短冊型をした樹脂細胞が早材部、晩材部の別なく軸方向に連続(ストランド)をなして存在する。板目では放射組織はすべて單列であった。イスマキは本州(中・南部)、四国、九州、琉球に分布する。

2) ヒノキ科アスナロ属 (*Thujopsis* sp.)

(遺物 No.226, 230, 228 小)

(写真 No.41, 45, 47 小)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で 1 分野に 2 ~ 4 個ある。板目では放射組織はすべて單列であった。數珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ(ヒバ・アテ)とヒノキアスナロ(ヒバ)があるが顕微鏡下では識別は困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

3) スギ科スギ属スギ (*Cryptomeria japonica* D. Don)

(遺物 No.231, 227, 233, 229, 234)

(写真 No.39, 40, 42 ~ 44)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で 1 分野に 1 ~ 3 個ある。板目では放射組織はすべて單列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

4) クワ科クワ属? (*Morus* sp.)

(遺物 No.232)

(写真 No.46)

木口では単独な数個が複合した道管が見られる。木様様の壁が厚い。ルーペの観察では大道管が環孔状に見える。柾目では道管は單穿孔を有する。道管の内腔にはチロースと着色物質が詰まっている。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は1~3細胞列、高さ1mmである。

〈参考文献〉

島地 謙・伊東隆夫 「日本の遺跡出土木製品総覧」 雄山閣出版 (1988)

島地 謙・伊東隆夫 「図説木材組織」 地球社 (1982)

伊東隆夫 「日本産広葉樹材の解剖学的記載I~V」 京都大学木質科学研究所 (1999)

北村四郎・村田 源 「原色日本植物図鑑木本編I・II」 保育社 (1979)

深澤和三 「樹体の解剖」 海青社 (1997)

奈良国立文化財研究所 「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代編」 (1985)

奈良国立文化財研究所 「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始編」 (1993)

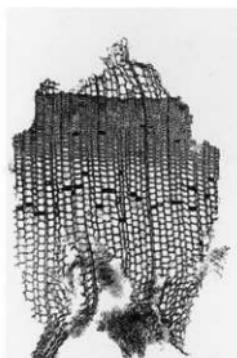
〈使用顕微鏡〉

Nikon

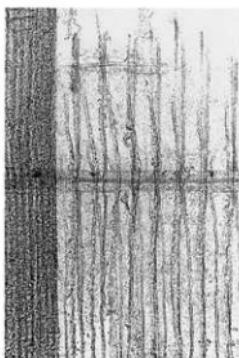
MICROFLEX UFX-DX Type 115

小杉町赤田東遺跡出土木製品同定表

写真No.	遺物No.	遺 物 名	樹 種
39	231	棒状木製品	スギ科スギ属スギ
40	227	棒状木製品	スギ科スギ属スギ
41	226	棒状木製品	ヒノキ科アスナロ属
42	233	板状木製品	スギ科スギ属スギ
43	229	板状木製品	スギ科スギ属スギ
44	234	板状木製品	スギ科スギ属スギ
45	230	棒状木製品	ヒノキ科アスナロ属
46	232	箸状木製品	クワ科クワ属?
47	228	棒状木製品(大)	マキ科マキ属イスマキ
		棒状木製品(小)	ヒノキ科アスナロ属



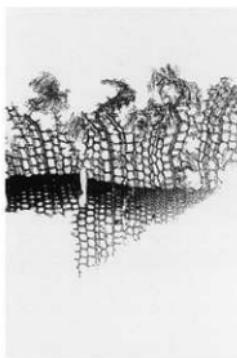
No.39 スギ科スギ属スギ
木口×40



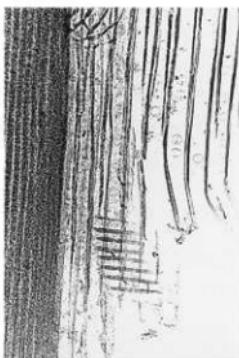
径目×100



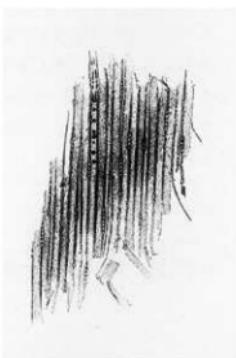
板目×40



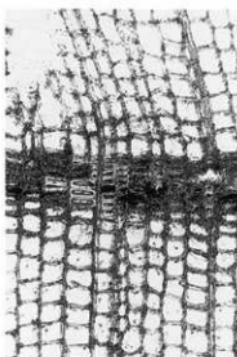
No.40 スギ科スギ属スギ
木口×40



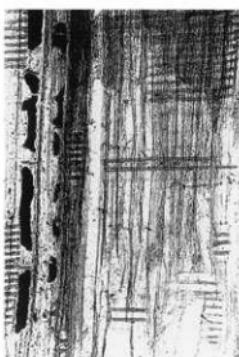
径目×100



板目×40



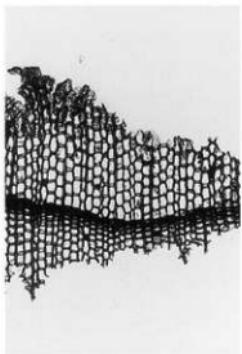
No.41 ヒノキ科アヌロ属
木口×100



径目×100



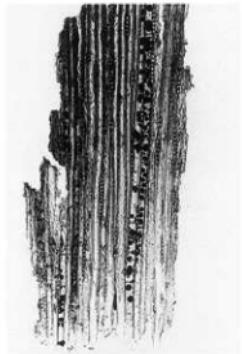
板目×40



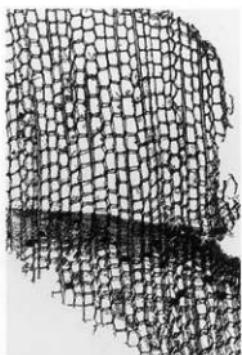
木口×40
No.42 スギ科スギ属スギ



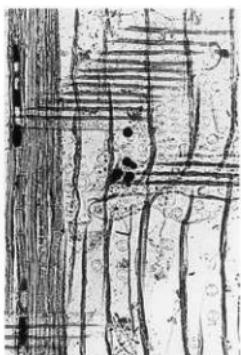
板目×100



板目×40



木口×40
No.43 スギ科スギ属スギ



板目×100



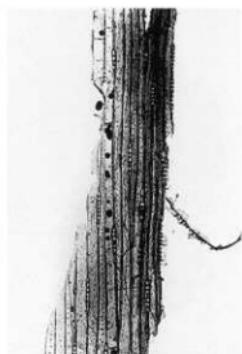
板目×40



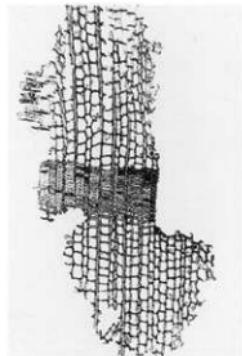
木口×40
No.44 スギ科スギ属スギ



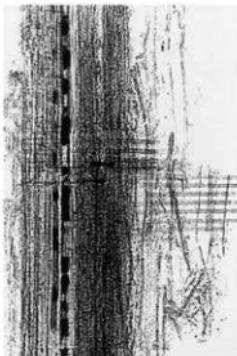
板目×100



板目×40



No.45 ヒノキ科アスナロ属
木口×40



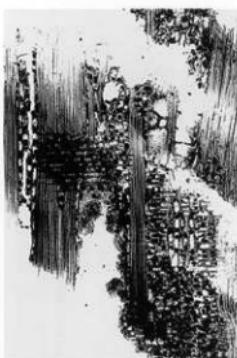
柾目×100



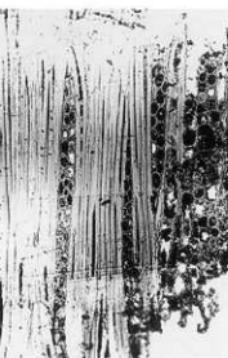
板目×40



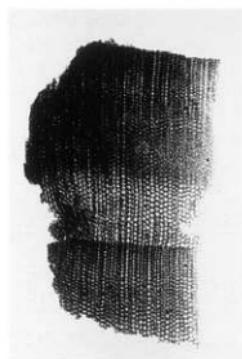
No.46 クワ科クワ属?
木口×40



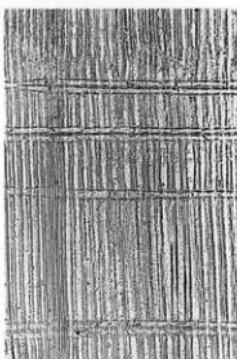
柾目×40



板目×40



No.47大 マキ科マキ属イスマキ
木口×40



柾目×100



板目×40



X10 ~ 53Y5 区 (南から)



X53 ~ 10Y5 区 (北から)

図版 2



X10 ~ 25Y10 区 (南から)



X53 ~ 35Y10 区 (北から)

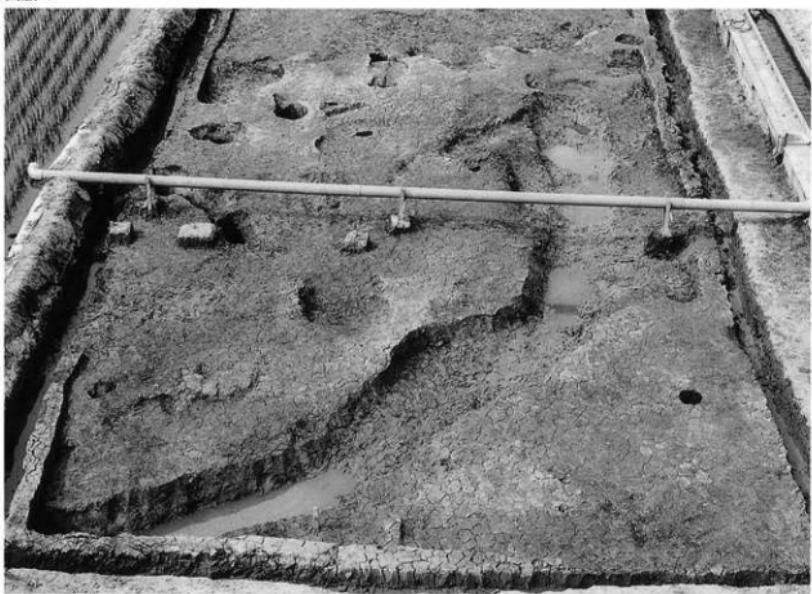


X5 ~ 10Y5 ~ 10 区 (北から)

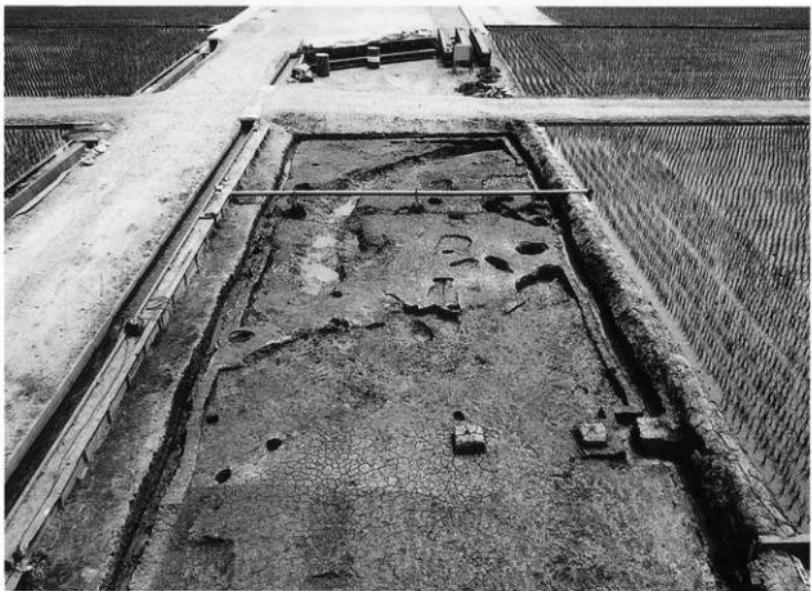


X5 ~ 10Y5 ~ 10 区 (真上から)

図版 4



X10 ~ 20Y5 ~ 10 区 (南から)



X10 ~ 20Y5 ~ 10 区 (北から)



SK01 の土層



SD02 の土層 (C-C' ライン)



SD02 の土層



SD02 の土器検出状況



SD04 の土層及び土器検出状況



SD02・04 の土層 (B-B' ライン)



SK14 の土器検出状況



SK14 の土層及び土器検出状況

図版 6



SK07 の土層



SK07 の完掘状況



SK12 の石器出土状況



SK12 の石器出土状況



SK12 の土層及び石器出土状況



SK11 の土層



SK03 の土層



X17Y4 区下層の土器検出状況



SK10 の土層



SK15 の土層



SK17 の土層



SK17 の土器検出状況



SP24 の土層



SP18 の土層



SP19 の土層



SP20 の土層

図版 8



SK49 の土層



SK50 の土層



SX67 の土層



SX67 の完掘状況



SK60 の土層



SK60 の完掘状況



SK53 の土層



SK66 の土層



SP61 の完掘状況



SP62 の土層



SP63 の土層



SD54 の土層



SX58 の土層



SK64 の土層



SD65、SK64・66 の完掘状況



SD65 の土層

図版 10



SD70 の土層



SK72 の土層



SK72 の土層



SK72 の土層



SK72 の実掘状況



SK73 の土層 (南から)



SK73 の土層 (東から)



SK73 の土器検出状況



X30～50Y5～10 区(南から)



SD31 の土層 (C-C' ライン)



SD31 (X35～40Y10 区) の完掘状況



SD31 の土層 (D-D' ライン)



SD31 の土層 (E-E' ライン)

図版 12



SP37 の土層



SP38 の土層



SP39 の土層



SP40 の土層



SP41 の土層



SP43 の土層



SP44 の土層



SP45 の土層



SD33 の土層 (B-B' ライン)



SD46 の土層



SK25 の土層



SK26 の土層



SK32 の土層



SP34 の土層



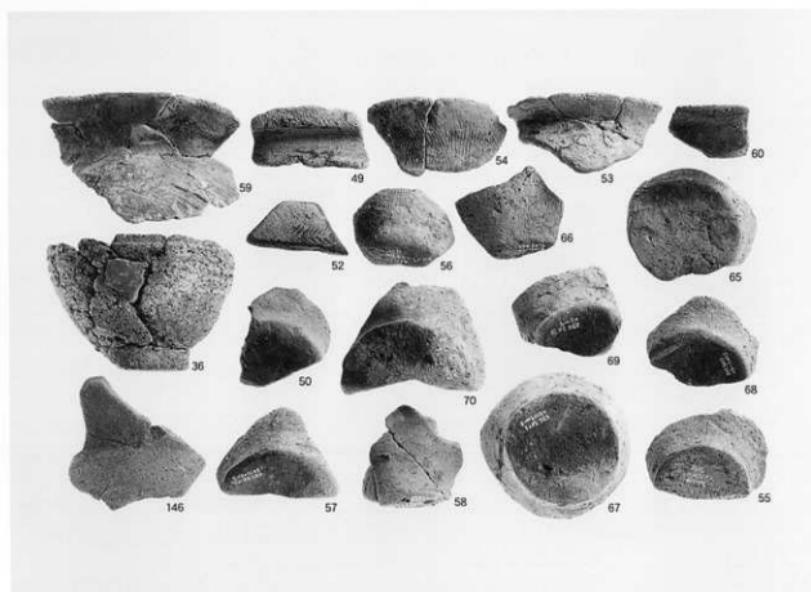
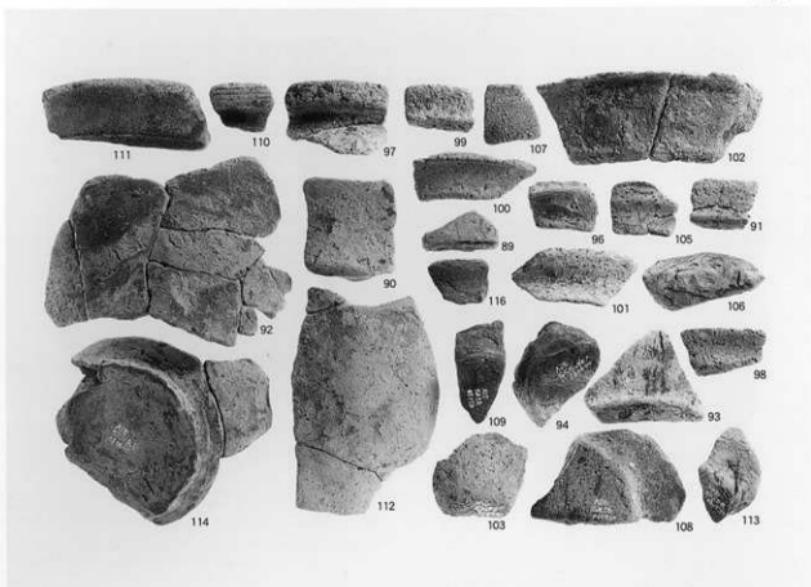
SP35 の土層



SP36 の土層

图版 14





图版 16



25



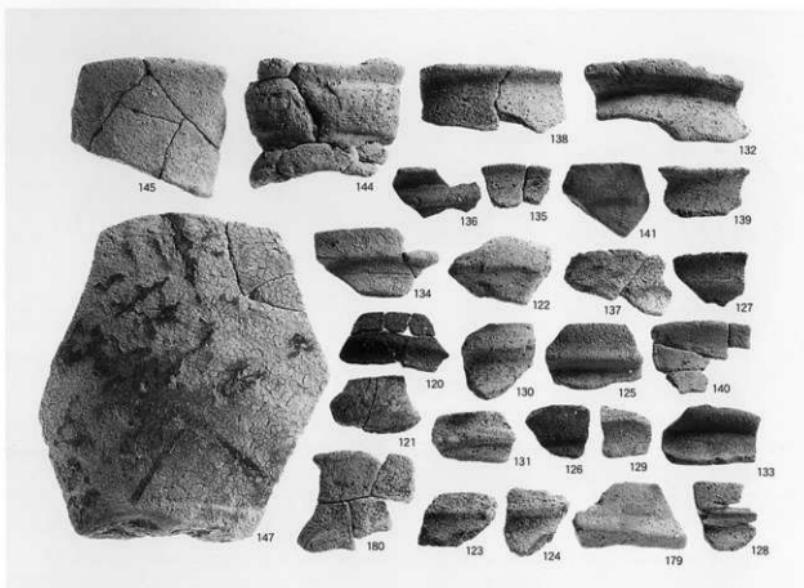
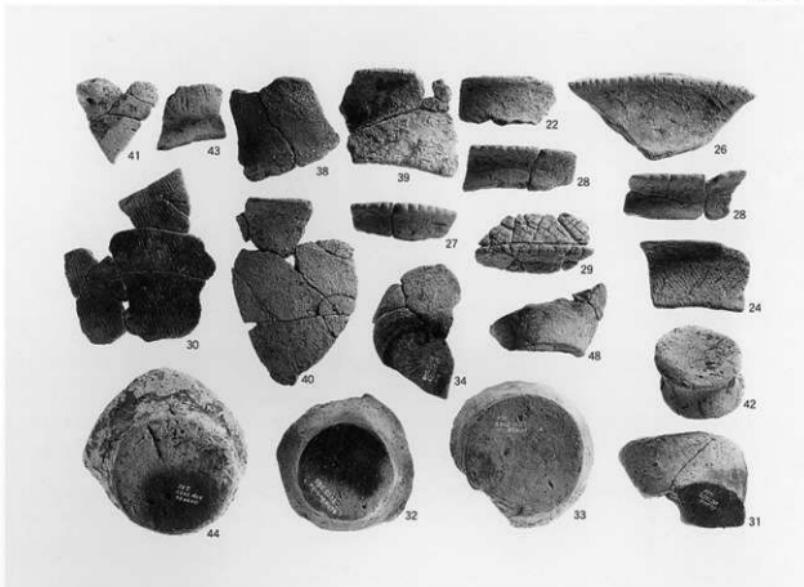
142



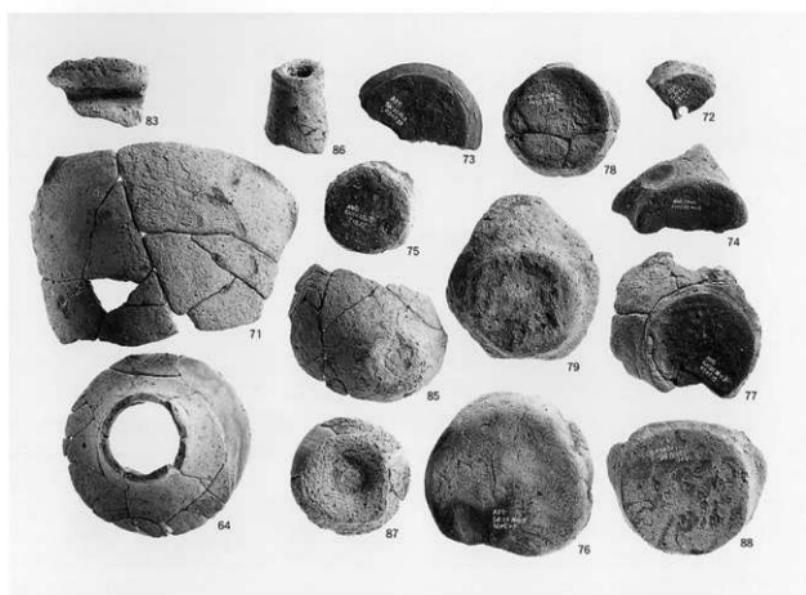
148



143



図版 18





62



61

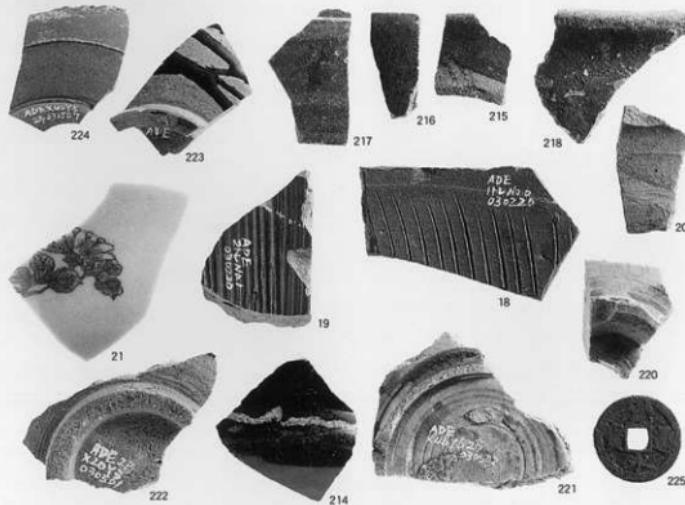
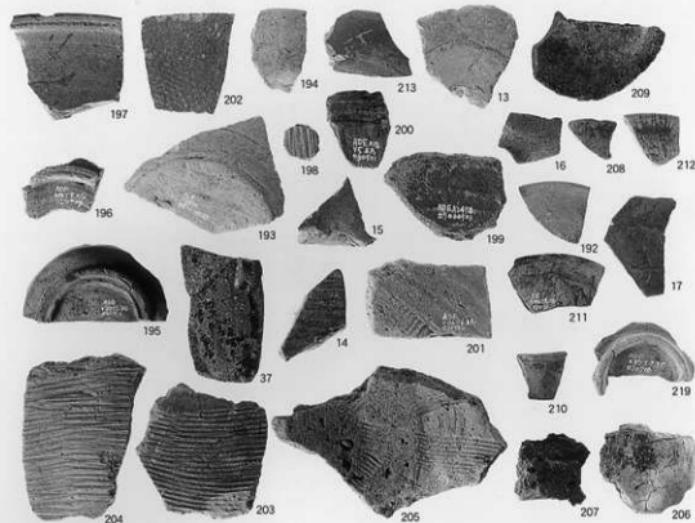


23



115

図版 20



報告書抄録

ふりがな	あかんだひがしいせきはつくつちょうさかいよう
書名	赤田東遺跡発掘調査概要
著書名	一町道二ノ井赤田線道路新設工事に先立つ埋蔵文化財調査－
編著者名	原田 義範 堀井 泰樹
編集・発行機関	小杉町教育委員会
所在地	〒939-0393 富山県射水郡小杉町戸破1511 TEL 0766-56-1511
発行年月日	西暦 2004年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査 面積m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
赤田東	いみすさんこすせきら 射水郡小杉町 がじょう 下条897外	16381	053	36度	137度	20030423～ 20031127	1,600	町道二ノ井赤田線道路整備事業に先立つ 本発掘調査
				42分	05分	20030220～ 20030221	246	町道二ノ井赤田線道路整備事業に先立つ 試掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
赤田東	散布地	弥生終 平安 中世 近世	溝・土坑 溝・土坑	弥生土器・四石・叩石・磨製石斧・石鏃 土師器・須恵器 中世土師器・珠潤 近世陶磁器

平成16年3月31日発行

赤田東遺跡発掘調査概要

一町道二ノ井赤田線道路新設工事に先立つ埋蔵文化財調査－

編集・発行 小杉町教育委員会

〒939-0393 富山県射水郡小杉町戸破1511

TEL 0766-56-1511

印刷 有限会社松本印刷

2004年3月

富山県小杉町教育委員会